災害環境研究プログラム　環境創生研究プログラム

委員会の主要意見
現状についての評価・質問等
○住民との対話を活発に行っている点を評価する。AIを導入した最適化を行っているが、いかに検証するかについても計画してほしい。【年度】 ○福島の復興を目指した実証的な研究プロジェクトであるが、低炭素化を目指した今後の日本社会のありかたを考える上で政策的な重要性が極めて高い成果が得られている点で評価する。【見込み】 ○各 PJ 研究は順調に進捗しており、終了時には当初計画を達成することが見込まれる。被災地域において、それらの研究成果を社会実装に繋げていくとともに、研究成果を広く発信し、PR していただきたい。【年度】【見込み】
今後への期待など
○福島 AIM モデルの高度化と社会実装にむけたさらなる研究の進展に期待する。【年度】 ○具体的に創生した環境を見るためには、まだまだ時間を要するものと思いますが、是非、見える成果を期待する。なお、そのためにも地域統合評価モデルなどは、行政者レベルで利用できるよう工夫する必要がある。【見込み】

主要意見に対する国環研の考え方
① 新地町では社会実装に至ったため実運用レベルの継続的なエネルギー需給データが得られております。このため AI を導入した最適化に関しては、事前予測に基づく最適化の結果を事後のデータと比較することを継続的に行い、検証と精度向上を行っていく予定です。 ② 社会全体の低炭素・脱炭素は当研究プログラムの問題意識とよく合致しており、今後の国内外において CO_2削減を推進する上で福島復興は極めて重要な示唆を持っていると考えております。それらに貢献できるような研究・政策支援を推進してまいります。 ③ 環境創生研究では当初の計画を推進するとともに、今後さらに研究を進展させ、成果の社会実装と国内外へのさらなる情報発信に結びつくように取り組んでいきたいと考えています。 ④ 福島 AIM は自治体職員を含めたワークショップや計画づくり等などの場ですでに社会実装レベルで活用しており、今後こうした地域研究において得られた成果を一般化することを通じて、市民参加型のモデルとして社会へのアウトリーチにも努めていきたいと考えております。 ⑤ 福島の被災地は地震・津波や放射性物質汚染などの被害の状況により復興のステージがまちまちですが、復興段階的に捉えて環境創生の知見を他の地域へ波及させる方針で実質的な成果を目指しております。モデル開発と平行して、ワークショップのプログラム検討等の社会実装のための手法についても、自治体職員の皆様と協働で開発を進めております。